

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年2月9日

【四半期会計期間】 第99期第3四半期(自平成26年10月1日至平成26年12月31日)

【会社名】 アマノ株式会社

【英訳名】 Amano Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 中島 泉

【本店の所在の場所】 横浜市港北区大豆戸町275番地

【電話番号】 (045)401 - 1441番

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員経営企画本部長 上野 亨

【最寄りの連絡場所】 横浜市港北区大豆戸町275番地

【電話番号】 (045)401 - 1441番

【事務連絡者氏名】 取締役常務執行役員経営企画本部長 上野 亨

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第98期 第3四半期 連結累計期間	第99期 第3四半期 連結累計期間	第98期
会計期間		自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高	(百万円)	70,508	75,374	102,131
経常利益	(百万円)	5,304	5,018	9,423
四半期(当期)純利益	(百万円)	3,024	2,827	5,299
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	5,766	3,967	9,594
純資産額	(百万円)	80,467	85,975	83,482
総資産額	(百万円)	115,071	122,613	122,838
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	39.48	36.91	69.19
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	69.6	69.7	67.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	7,191	4,660	11,035
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	4,300	5,413	6,081
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	728	2,973	780
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	29,244	28,340	31,674

回次		第98期 第3四半期 連結会計期間	第99期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	14.76	18.34

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（時間情報システム事業）

重要性が増したため、アマノ パーキング サービス Ltd.（香港）を連結子会社にしております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における当社グループは、当社、連結子会社27社、非連結子会社5社及び持分法適用関連会社2社により構成されることとなりました。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外経済が米国を中心に回復傾向にあり、原油安や円安が続く中、企業収益の改善を背景に設備投資が底堅く推移し、個人消費についても雇用・所得環境の改善とともに回復の動きがみられることから、景気は足取りは重いものの、消費増税後の落ち込みから徐々に持ち直しているものと考えられます。

このような経営環境下にあって、当社グループは、昨年4月よりスタートした新中期経営計画において100年企業を目指した「新たなステージへの挑戦 - 規模の拡大と成長ドライブの構築 - 」を経営コンセプトに掲げ、新市場開拓、新規事業構築などに取り組むとともに、徹底的な顧客ニーズの掘り起こしに注力し、原価低減、販管費抑制にも努めました。

しかしながら、アマノ単体においては増収増益を確保したものの、北米においてはパーキング事業での新製品投入の遅れなどにより営業損失となり、また、平成26年6月に予定していた欧州グループ会社売却に伴う特別利益の計上が平成27年2月にずれ込むこととなりました。詳細については、「重要な後発事象」をご参照ください。

業績については、売上高は753億74百万円(前年同四半期比6.9%増)と増収となりましたが、利益面では、営業利益44億39百万円(同8.2%減)、経常利益50億18百万円(同5.4%減)、四半期純利益28億27百万円(同6.5%減)となり、減益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 時間情報システム事業

当事業の売上高は、548億87百万円で、前年同四半期比26億78百万円の増収(前年同四半期比5.1%増)、営業利益は48億28百万円で、同8億34百万円の減益(同14.7%減)となりました。

情報システムは、国内は大型物件および入室システムの需要増加により増収となり、また、海外は北米のアクタイムシステムズ社は減収、欧州のホロススマート社は為替の影響もあり増収となり、全体では2.1%の増収となりました。

時間管理機器は、国内は横ばい、海外はアジアは減収、北米、欧州は増収となり、全体では1.3%の増収となりました。

パーキングシステムは、国内は駐車場システム・駐輪場システムともに堅調に推移し、また、運営受託サービスも順調に拡大しております。海外は北米のアマノマクギャン社は減収、欧州はアジア・オセアニア地域での受注拡大により増収、アジア地域では韓国が為替の影響もあり増収となり、全体では6.9%の増収となりました。

#### 環境関連システム事業

当事業の売上高は、204億86百万円で、前年同四半期比21億87百万円の増収(前年同四半期比12.0%増)、営業利益は17億79百万円で、同5億17百万円の増益(同41.0%増)となりました。

環境システムは、国内は汎用機・大型システムともに堅調に推移し、また、海外はアジア市場を中心に増収となり、全体では9.4%の増収となりました。

クリーンシステムは、国内は清掃管理コスト抑制が響き清掃機器売上が減収となりましたが、海外は北米は当期新たに事業領域に加わった木材床研磨機器事業が寄与し、全体では17.3%の増収となりました。

(参考情報)

〔所在地別情報〕

(単位：百万円)

	売上高				営業利益又は営業損失( )			
	第3四半期累計期間		増減	増減率(%)	第3四半期累計期間		増減	増減率(%)
	平成26年3月期	平成27年3月期			平成26年3月期	平成27年3月期		
日本	50,912	53,248	2,335	4.6	5,814	5,835	21	0.4
アジア	6,437	7,703	1,266	19.7	547	593	45	8.3
北米	9,348	10,327	979	10.5	140	175	316	
欧州	5,118	5,554	436	8.5	377	299	78	20.7
計	71,816	76,834	5,017	7.0	6,880	6,552	328	4.8
消去又は全社	1,308	1,460			2,045	2,113		
連結	70,508	75,374	4,865	6.9	4,835	4,439	396	8.2

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

- (1) アジア.....シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、韓国、中国  
(2) 北米.....アメリカ、カナダ  
(3) 欧州.....フランス、ベルギー、スペイン

〔海外売上高〕

(単位：百万円)

	海外売上高				連結売上高に占める海外売上高の割合(%)		
	第3四半期累計期間		増減	増減率(%)	第3四半期累計期間		増減
	平成26年3月期	平成27年3月期			平成26年3月期	平成27年3月期	
アジア	6,446	7,747	1,300	20.2	9.1	10.3	1.2
北米	9,249	9,562	312	3.4	13.1	12.7	0.4
欧州	5,042	5,293	250	5.0	7.2	7.0	0.2
その他の地域	174	1,257	1,083	622.3	0.3	1.7	1.4
計	20,912	23,860	2,947	14.1	29.7	31.7	2.0
連結売上高	70,508	75,374					

(注) 1. 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2. 本邦以外の区分に属する主な国又は地域

- (1) アジア.....シンガポール、タイ、マレーシア、インドネシア、韓国、中国  
(2) 北米.....アメリカ、カナダ  
(3) 欧州.....フランス、ベルギー、スペイン  
(4) その他の地域.....中南米

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

## (2) 財政状態の分析

### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、1,226億13百万円と前連結会計年度末に比べ2億24百万円減少いたしました。これは主に、事業の譲受けに伴う無形固定資産の増加等により固定資産が4億55百万円増加したものの、流動資産が受取手形及び売掛金の減少等により6億80百万円減少したことによるものであります。

### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、366億37百万円と前連結会計年度末に比べ27億17百万円減少いたしました。これは主に、仮受消費税の増加等によりその他流動負債が増加したものの未払法人税等の減少等により流動負債が7億57百万円減少し、また、固定負債が退職給付に係る負債の減少等により19億60百万円減少したことによるものであります。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、859億75百万円と前連結会計年度末に比べ24億92百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益の計上等により株主資本が13億78百万円増加し、また、その他の包括利益累計額がその他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の増加等により10億29百万円増加したことによるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、283億40百万円と前連結会計年度末に比べ33億33百万円減少いたしました。当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、46億60百万円（前年同四半期に比べ25億30百万円の収入の減少）となりました。これは主に、法人税等の支払額44億21百万円等が計上されたものの、税金等調整前四半期純利益49億69百万円、売上債権の減少額30億44百万円、減価償却費30億42百万円等が計上されたことによるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、54億13百万円（前年同四半期に比べ11億13百万円の支出の増加）となりました。これは主に、定期預金の払戻による収入39億88百万円等が計上されたものの、定期預金の預入による支出50億61百万円、事業譲受による支出20億44百万円、有形固定資産の取得による支出15億79百万円等が計上されたことによるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、29億73百万円（前年同四半期に比べ22億44百万円の支出の増加）となりました。これは主に、セール・アンド・リースバックによる収入11億77百万円等が計上されたものの、配当金の支払額24億50百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出12億55百万円等が計上されたことによるものであります。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は平成26年6月27日開催の第98回定時株主総会の終了の時をもって、「当社株券等の大量買付行為への対応策（買収防衛策）」を継続しないことといたしました。

当社は、当該対応策の非継続後も当社株券等の大量買付けが行われた際には、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させるために、積極的な情報収集と適時開示に努めるとともに、法令及び定款の許容する範囲内において、適切な措置を講じてまいります。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は11億88百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因

時間情報システム事業及び環境関連システム事業をグローバルに展開しておりますが、売上高及び営業利益への貢献割合は時間情報システム事業が高くなっております。当社グループの業績において高い割合を有する時間情報システム事業について、需要構造の激変、新市場の創出等により市場拡大が見込まれると予測された場合、新たな競争相手の参入が予想されます。その場合、競争相手が当社を凌駕する革新的な製品やソリューションをもって参入し、当社グループの市場優位性が低下し、業績に大きな影響を与える可能性があります。

グローバルな事業展開に伴い、当社グループの業績は海外での取引を円換算する際に、為替相場の変動による影響を受ける状況にあります。

システム・ソリューションの提案やASP・SaaSサービス、ホスティングサービス等のクラウドビジネスを展開する中で、顧客及び顧客からお預かりした個人情報等の機密情報を取扱っております。そのため、「情報セキュリティ管理規程」に基づく安全管理措置の強化・徹底を図り、具体的には、ハードディスクや外部媒体の暗号化による機密情報漏洩防止措置、定期的なe-learningによる社員教育等を実施しております。また、当社は平成26年2月にプライバシーマークの認証を取得し、業務委託先の監督や社内規定の遵守徹底を図る等、情報セキュリティへの取組みについては万全を期しておりますが、予期せぬ事態によりそれら機密情報や個人情報の紛失、漏洩が起きた場合には、信用の低下等により、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

大規模地震や風水害等の自然災害発生時には、人的・物的被害を受ける可能性があります。当社グループでは、平時より災害時緊急連絡カードの常時携帯、緊急連絡網の整備、ファイルサーバーの外部データセンター移設、また緊急事態発生時における災害対策本部設置体制の整備等、必要な措置を講じておりますが、販売拠点である営業所及び製造拠点である事業所の損壊や従業員の業務従事困難な状況の発生により、事業活動が一時的に継続できなくなる可能性があります。

日本をはじめ北米・欧州・アジア各地域においてグローバルな事業展開を行っております。展開先の国・地域における独自の法令諸規則適用や政治変動による社会混乱、戦争・テロ発生等により、業務不能な状況となることも想定され、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは、「TIME & ECOLOGYの事業領域重視 / 本業強化」「得意な事業領域におけるニッチトップ」「不断のリストラ」「キャッシュ・フローをベースとした経営」を4つの不変の戦略として継続しながら、時代の変化に対応し、変わり続けることを伝統としております。この4つの基本戦略に基づき、平成26年4月から新中期経営計画をスタートいたしました。

本計画は100年企業を目指した「新たなステージへの挑戦 - 規模の拡大と成長ドライブの構築 - 」を経営コンセプトとして掲げ、「企業規模の拡大」「経営効率の向上」「連結経営の強化」「コーポレートガバナンスの進化」の4つの重要課題を実行し、本計画の最終年度である平成29年3月期に売上高1,300億円以上、営業利益130億円以上の業績達成を目指してまいります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	185,476,000
計	185,476,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年2月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	76,657,829	76,657,829	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は 100株であります。
計	76,657,829	76,657,829		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日		76,657,829		18,239		19,292

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。



(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 65,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 76,499,600	764,996	
単元未満株式	普通株式 92,329		
発行済株式総数	76,657,829		
総株主の議決権		764,996	

- (注) 1 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が13株含まれております。  
2 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) アマノ株式会社	横浜市港北区大豆戸町 275番地	65,900		65,900	0.09
計		65,900		65,900	0.09

- (注) 当第3四半期会計期間末日現在の「自己株式等」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	35,014	32,701
受取手形及び売掛金	28,584	1 25,703
有価証券	1,658	1,801
商品及び製品	3,054	3,683
仕掛品	761	1,469
原材料及び貯蔵品	3,303	4,649
繰延税金資産	1,245	1,255
その他	1,415	3,069
貸倒引当金	265	243
流動資産合計	74,771	74,090
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	11,089	10,932
機械装置及び運搬具(純額)	802	857
工具、器具及び備品(純額)	1,338	1,373
土地	7,247	7,247
リース資産(純額)	3,359	3,403
建設仮勘定	406	170
有形固定資産合計	24,244	23,985
<b>無形固定資産</b>		
のれん	5,128	4,842
ソフトウェア	2,541	2,435
ソフトウェア仮勘定	794	1,098
その他	1,890	3,399
無形固定資産合計	10,355	11,775
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	6,634	6,848
長期貸付金	12	19
破産更生債権等	388	395
差入保証金	1,054	1,027
繰延税金資産	2,152	1,363
長期預金	1,500	1,500
退職給付に係る資産	73	73
その他	2,055	1,944
貸倒引当金	406	413
投資その他の資産合計	13,465	12,760
固定資産合計	48,066	48,522
資産合計	122,838	122,613

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,065	5,878
電子記録債務	6,320	6,477
短期借入金	451	305
リース債務	1,364	1,424
未払法人税等	3,007	642
賞与引当金	1,975	903
その他	9,791	12,587
流動負債合計	28,976	28,219
固定負債		
長期借入金	2,133	1,905
長期未払金	189	191
リース債務	3,412	3,489
繰延税金負債	122	104
退職給付に係る負債	4,158	2,386
資産除去債務	29	29
その他	331	310
固定負債合計	10,378	8,418
負債合計	39,355	36,637
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,239	18,239
資本剰余金	19,293	19,293
利益剰余金	49,298	50,677
自己株式	52	53
株主資本合計	86,778	88,156
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	574	1,057
為替換算調整勘定	3,481	3,009
退職給付に係る調整累計額	812	736
その他の包括利益累計額合計	3,718	2,688
少数株主持分	422	507
純資産合計	83,482	85,975
負債純資産合計	122,838	122,613

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	70,508	75,374
売上原価	39,811	42,718
売上総利益	30,696	32,655
販売費及び一般管理費		
販売費	23,490	25,568
一般管理費	2,370	2,648
販売費及び一般管理費合計	25,860	28,216
営業利益	4,835	4,439
営業外収益		
受取利息	56	89
受取配当金	63	79
受取保険金	48	18
為替差益	125	184
持分法による投資利益	27	-
その他	238	300
営業外収益合計	560	672
営業外費用		
支払利息	35	45
外国源泉税	9	4
持分法による投資損失	-	9
その他	46	33
営業外費用合計	91	93
経常利益	5,304	5,018
特別利益		
固定資産売却益	14	6
特別利益合計	14	6
特別損失		
固定資産除却損	31	54
固定資産売却損	0	0
特別退職金	0	-
特別損失合計	32	54
税金等調整前四半期純利益	5,286	4,969
法人税等	2,184	2,039
少数株主損益調整前四半期純利益	3,101	2,930
少数株主利益	77	102
四半期純利益	3,024	2,827

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,101	2,930
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	425	475
為替換算調整勘定	2,216	476
退職給付に係る調整額	-	76
持分法適用会社に対する持分相当額	23	9
その他の包括利益合計	2,664	1,037
四半期包括利益	5,766	3,967
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,654	3,856
少数株主に係る四半期包括利益	111	110

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,286	4,969
減価償却費	2,685	3,042
のれん償却額	491	559
退職給付引当金の増減額(は減少)	91	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	86
貸倒引当金の増減額(は減少)	20	12
受取利息及び受取配当金	119	169
持分法による投資損益(は益)	27	9
支払利息	35	45
為替差損益(は益)	1	147
固定資産売却損益(は益)	13	6
固定資産除却損	31	54
特別退職金	0	-
売上債権の増減額(は増加)	3,078	3,044
たな卸資産の増減額(は増加)	1,939	2,532
仕入債務の増減額(は減少)	494	121
その他の流動負債の増減額(は減少)	1,498	1,574
その他	647	1,313
小計	9,978	8,910
利息及び配当金の受取額	190	202
利息の支払額	38	48
特別退職金の支払額	0	-
法人税等の支払額	2,952	4,421
法人税等の還付額	13	17
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,191	4,660
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	1,000	1,000
有価証券の償還による収入	1,000	1,300
有形固定資産の取得による支出	2,290	1,579
有形固定資産の売却による収入	20	16
無形固定資産の取得による支出	1,873	1,066
投資有価証券の取得による支出	104	54
関係会社株式の売却による収入	36	-
子会社株式の取得による支出	101	-
事業譲受による支出	-	2,044
貸付けによる支出	7	10
貸付金の回収による収入	10	3
定期預金の預入による支出	3,275	5,061
定期預金の払戻による収入	3,332	3,988
その他	48	93
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,300	5,413

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	234	418
長期借入れによる収入	972	-
自己株式の取得による支出	1	1
ファイナンス・リース債務の返済による支出	1,122	1,255
セール・アンド・リースバックによる収入	1,673	1,177
配当金の支払額	1,991	2,450
少数株主への配当金の支払額	24	25
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>728</b>	<b>2,973</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	494	291
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,656	3,436
現金及び現金同等物の期首残高	26,587	31,674
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	102
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 29,244	1 28,340



【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

アマノ パーキング サービス Ltd. (香港) は重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間ごとに設定された複数の割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が1,571百万円減少し、利益剰余金が1,012百万円増加しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ71百万円増加しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。また見積実効税率を使用できない場合は、税引前四半期純損益に一時差異に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
受取手形		294百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
現金及び預金	31,881百万円	32,701百万円
有価証券	1,797 "	1,801 "
計	33,678百万円	34,502百万円
預入期間が3か月を超える 定期預金	2,934 "	4,762 "
償還期間が3か月を超える 有価証券	1,500 "	1,399 "
現金及び現金同等物	29,244百万円	28,340百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	995	13	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
平成25年11月6日 取締役会	普通株式	995	13	平成25年9月30日	平成25年12月3日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

平成25年3月27日開催の取締役会決議に基づき、平成25年4月8日に自己株式4,600,000株を消却いたしました。  
この結果、自己株式が3,669百万円、資本剰余金が274百万円、利益剰余金が3,395百万円それぞれ減少しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,302	17	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金
平成26年11月5日 取締役会	普通株式	1,148	15	平成26年9月30日	平成26年12月2日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 2
	時間情報 システム事業	環境関連 システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	52,208	18,299	70,508		70,508
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	52,208	18,299	70,508		70,508
セグメント利益	5,663	1,262	6,925	2,090	4,835

(注) 1 セグメント利益の調整額 2,090百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注) 2
	時間情報 システム事業	環境関連 システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	54,887	20,486	75,374		75,374
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	54,887	20,486	75,374		75,374
セグメント利益	4,828	1,779	6,608	2,169	4,439

(注) 1 セグメント利益の調整額 2,169百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「会計方針の変更等」に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間ごとに設定された複数の割引率を使用する方法へ変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益は「時間情報システム事業」が48百万円、「環境関連システム事業」が20百万円、「調整額」が2百万円それぞれ増加しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	39円48銭	36円91銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	3,024	2,827
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	3,024	2,827
普通株式の期中平均株式数(株)	76,594,365	76,592,264

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

子会社株式の売却

当社連結子会社である欧州持株会社ホロススマート S.A.は、保有する連結子会社スコパス オムニバッジ S.A.S. (以下、スコパス社)の全株式について、平成27年1月8日付でSCOPUS FINANCE S.A.Sとの間で株式売買契約を締結し、平成27年2月3日に株式売却を実行いたしました。

1. 株式売却の理由

当社グループは、欧州において連結子会社ホロクオルツ S.A. (以下、ホロクオルツ社)を中心に時間情報システム事業の展開を進めておりますが、スコパス社におけるカード事業については、将来的な成長性について不透明な状況であり、またホロクオルツ社の中核事業との関連性が低いことから、本件株式売却の判断に至りました。

2. 売却する相手会社の名称

SCOPUS FINANCE S.A.S

3. 売却の時期

平成27年2月3日

4. 当該子会社の名称、事業内容及び当社との取引内容

名称：スコパス オムニバッジ S.A.S.

事業内容：各種カードの製造・販売

当社との取引内容：なし

5. 売却する株式の売却価額、売却損益及び売却後の持分

売却価額：1,052百万円(7,865千ユーロ)

売却損益：売却による連結財務諸表に与える影響は算定中です。

(第4四半期連結会計期間に計上予定)

売却後の持分： %

円貨額は平成27年1月末日レート(1ユーロ=133.85円)にて換算しております。

2 【その他】

第99期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)中間配当について、平成26年11月5日開催の取締役会において、平成26年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 1,148百万円

1株当たりの金額 15円

支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成26年12月2日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月9日

アマノ株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 安 田 弘 幸

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 日 置 重 樹

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアマノ株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アマノ株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。